

物語文総合 No.3(転校生とバスケット部)

L1 標準

Class _____ No. _____ Name _____

レベル:L1(都立共通・神奈川の共通問題レベル)

目標時間:18分

満点:100点(自己採点)

次の英文は、中学生のケンタ(Kenta)が書いた物語です。読んで、あとの各問に答えなさい。

- ❶ In May, a new student came to our class. His name was Shun. He was tall and good at basketball, so our team was excited. But there was one thing we did not like. After practice, we always play a free game — it is the most fun time of the day. Shun never joined it. He said, “Sorry, I have to go,” and left quickly, every day. Soon, some members started to say, “He doesn’t like us.”
- ❷ I believed it, too. In June, I stopped passing the ball to Shun in the free game time — he was never there, and in my heart, he was already “the cold new player.” One day, our coach said to me, “Kenta, you are the captain. Do you know Shun? Not his basketball. Him.” I could not answer. I knew his plays, but I did not know anything about his days.
- ❸ The answer came on a rainy Saturday. I went to the morning market with my mother. At the corner of the park, I saw a boy practicing shooting alone under the small roof of the gate. It was six thirty in the morning. It was Shun. He saw me and looked a little embarrassed. “My little brother is sick,” he said slowly. “My mother works in the evening, so I go home early and stay with him. Morning is my only time for extra practice.”
- ❹ I did not know what to say for a moment. I remembered our words — “He doesn’t like us.” My face became hot. “Can I join you next Saturday?” I finally said. Shun’s eyes became wide. Then he smiled for the first time. “Six thirty. Don’t be late,” he said. From that day, our morning practice started. First two people, then five, and in July, almost half of the team.
- ❺ Last week, we won the first game of the summer tournament. In the last minute, Shun passed the ball to me — not to shoot by himself — and I made the final shot. After the game, he laughed loudly with us for the first time. On the way home, I thought about the rainy Saturday. If a door looks closed, it does not always mean the door is locked. Maybe you just have to knock first.

〔注〕 free game 自由試合・ミニゲーム / coach コーチ・監督 / captain キャプテン / market 市場 / embarrassed 気まずそう
な / extra 追加の / tournament 大会 / knock ノックする

物語文総合 No.3(転校生とバスケ部) **L1 標準**

設問 本文の内容について、最も適切なものをア～エから1つずつ選ぼう。

問1(15点) 下線部 He doesn't like us. という言葉が生まれた理由として最も適切なものはどれか。 ア シュンが試合でパスをしなかったから。 イ シュンが練習後の自由試合に一度も参加せず、すぐ帰ってしまうから。 ウ シュンが他の学校の友達の話ばかりするから。 エ シュンがバスケットボールが下手だったから。	()
問2(15点) 第②段落でコーチの言葉を聞いたあと、ケンタが答えられなかったのはなぜか。 ア シュンのプレーを見たことがなかったから。 イ コーチの英語が聞き取れなかったから。 ウ シュンのプレーは知っていても、シュン自身のことは何も知らないと感じていたから。 エ キャプテンをやめたいと思っていたから。	()
問3(15点) 次のA～Dの出来事を、起こった順に並べたものとして正しいものはどれか。 A ケンタが雨の土曜日に、朝6時半のシュンを見つける。 B 朝練習に、チームの半分近くが参加するようになる。 C チームが夏の大会の初戦に勝つ。 D ケンタが自由試合でシュンにパスを出さなくなる。 ア A→D→B→C イ D→A→B→C ウ D→B→A→C エ A→B→D→C	()
問4(15点) 第④段落で、ケンタの顔が熱くなった(My face became hot)理由として最も適切なものはどれか。 ア 朝の公園が寒かったから。 イ シュンに初めて会えてうれしかったから。 ウ 走って市場に向かっていたから。 エ 「ぼくらが嫌いなんだ」と思いこんでいた自分がはずかしくなったから。	()
問5(20点) 本文の内容と合っているものはどれか。 ア シュンは夕方、病気の弟のそばにいたために早く帰っていた。 イ コーチは、シュンを他のチームに移すことを提案した。 ウ ケンタは、シュンの朝練習への参加を断った。 エ チームは夏の大会の初戦で負けた。	()
問6(20点) 最終段落の If a door looks closed, it does not always mean the door is locked. が表す考えとして最も適切なものはどれか。 ア 朝の練習は夕方の練習より効果がある。 イ 閉ざされて見える相手にも、まず自分から歩み寄ってみるべきだ。 ウ ドアには必ずかぎをかけるべきだ。 エ うわさは必ず正しい。	()

とき終わったら かかった時間(分 秒)→ 次のページの解説で自己採点 → 得点(/100点) まちがえ
た問題こそ宝。解説の「誤答の切り方」まで読むと、次の1枚で点が変わる。

解答一覧(まず自己採点)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	得点
イ	ウ	イ	エ	ア	イ	／100

問1 正解 **イ**(15点) | 「思いこみ」の根拠は、その直前の事実描写にある

根拠 直前＝「シュンは自由試合に一度も参加しない。『ごめん、帰らなきゃ』と毎日すぐ帰る」。この見えている**事実**だけから、「ぼくらが嫌いなんだ」という**思いこみ**が生まれた——事実と解釈のずれが、この物語の出発点。

誤答の切り方

ア	パスの話は第⑥段落の試合の場面。この時点ではまだ起きていない。
イ	直前の事実描写そのまま。
ウ	他校の友達の話は出てこない。
エ	シュンはうまい(good at basketball)。真逆。

 **この形式のコツ** 物語の「うわさ・思いこみ」の問題は、①見えている事実 ②そこからの解釈、を分けて読む。あとで**真実**(㊟)が明かされる物語では、この「ずれ」が必ず設問になる。

問2 正解 **ウ**(15点) | 「答えられない」場面は直後の心の声が説明する

根拠 直後の文 I knew his plays, but I did not know anything about his days.(プレーは知っていたが、彼の日々については何も知らなかった)がそのまま理由。コーチの Not his basketball. Him.(バスケットではなく、彼自身を)という問いが、その事実を突きつけた。

誤答の切り方

ア	プレーはよく知っていた(I knew his plays)。逆。
イ	言葉が聞き取れない場面ではない。
ウ	直後の心の声(plays は知っているが days は知らない)そのまま。
エ	キャプテンをやめたい描写はない。

 **この形式のコツ** 「何も言えなかった」「答えられなかった」の理由は、その直後の**1～2文**に置かれる。沈黙の場面は、心の声が続く——物語の作りの決まりごとを知っていれば探す場所は1つ。

問3 正解 イ(15点) | 時の言葉(月・曜日)で時間表を作る

根拠 Dパスを出さない＝6月(第②段落)、A雨の土曜日の発見＝第③段落、B朝練に半分近く＝7月(第④段落)、C初戦勝利＝先週(第⑤段落)。5月転校→6月→雨の土曜→7月→先週、と時の言葉が並ぶ。

誤答の切り方

ア	発見(A)より前に、思いこみの6月(D)がある。
イ	6月D→雨の土曜A→7月B→先週C。時の言葉どおり。
ウ	朝練の広がり(B)は発見(A)のあと。きっかけの順が逆。
エ	発見(A)が最初ではない。誤解の期間が先にある。

🔑 この形式のコツ 並べかえは In May / In June / In July / Last week に丸をつけて時間表を作る——物語の月・曜日は、順序問題のために置かれている。

問4 正解 エ(15点) | 同じ体の描写でも「直前の内容」で意味が変わる

根拠 顔が熱くなる直前に、I remembered our words — “He doesn’t like us.”(ぼくらの言葉を思い出した)とある。真実(弟の看病・朝しか練習できない)を知った直後に、自分たちの思いこみを思い出した——はずかしさの熱。

誤答の切り方

ア	寒さなら顔は熱くならない。
イ	「初めて会えた」わけではない。同じチームで練習している。
ウ	走った描写はない。
エ	直前の「思い出した言葉」とセットで読むと、はずかしさ以外にない。

🔑 この形式のコツ 「顔が熱くなる」は、緊張(No.1の第①段落)にも、はずかしさ(ここ)にもなる——同じ描写でも直前の出来事で意味が決まる。体の描写は単語帳のように暗記せず、毎回きっかけとセットで訳す。

問5 正解 ア(20点) | 「真実が明かされる段落」が内容一致の中心になる

根拠 第❸段落のシュンの説明—— 弟が病気で、母は夜働いているので、早く帰って弟という。朝だけが追加練習の時間——と一致。
誤答の切り方

ア	第❸段落のシュンのせりふそのまま。
イ	コーチの提案は「シュン自身を知っているか」という問いかけ。移籍の話はない。
ウ	断ったのではなく「次の土曜、入れて」と申し出た側。
エ	初戦は勝った(we won the first game)。

 この形式のコツ 誤解がとける物語では、真実が明かされる段落(ここでは❸)が内容一致の正解の置き場所になる。誤解の内容(❶～❷)をそのまま書いた選択肢がワナ。

問6 正解 イ(20点) | 締めめの比喩は「物語全体」を1文に圧縮したもの

根拠 閉じて見えるドア＝すぐ帰ってしまうシュン。ノック＝ケンタの「次の土曜、入れて」。ノックしたらドアは開いた(初めての笑顔・朝練・パス)。比喩の各部分が物語の出来事と1対1で対応する。
誤答の切り方

ア	練習の効果の比較は主題ではない。
イ	比喩の対応(ドア＝シュン、ノック＝歩み寄り)が物語全体と重なる。
ウ	かぎをかける話は真逆。
エ	うわさ(思いこみ)は物語の中でまちがいだったと分かる。

 この形式のコツ 物語の最後の比喩は、登場人物・出来事との対応表を作ると正確に読める(ドア＝誰? ノック＝何をした?)。対応がそう選択肢が主題。

本文の設計図(段落メモ)——復習は「1段落1行」でまとめ直するのが最短

❶	5月＝転校生シュン。自由試合に参加せず「ぼくらが嫌いなんだ」といううわさ
❷	6月＝ケンタもパスを出さなくなる。コーチ「彼のバスケではなく、彼自身を知っているか」
❸	雨の土曜＝朝6時半、ひとりで練習するシュン。弟の看病という真実
❹	変化＝はずかしさ→「入れて」のひとこと→朝練が2人から半分近くへ
❺	結末＝初戦勝利・シュンのパスと初めての大笑い。「閉じて見えるドアも、かぎまでは分らない」

もう一段のぼる 物語文L1の3枚で「体の描写の翻訳」「時間表」「比喩の対応表」がそろった。L2では、同じ技をもっと長い物語(約540語)で使う——スピードが試される。

先生向け・運用ノート チャレンジ棚・部活動の人間関係指導にも(本文約440語。計30分)。「見えている事実と解釈を分ける」は、いじめ予防の観点からも価値のある読解体験になる。配点は問1～4各15点・問5～6各20点。